

健康ウオツチング

東陽病院 院長 伊藤 文憲

糖尿病 (II)

横芝町の皆さん今日は。今回も糖尿病のお話しです。糖尿病の合併症は急性期と慢性期に分けられます。前回に述べた糖尿病の三大合併症はいずれも慢性期のものです。網膜症、神経障害、腎症の三つです。急性期合併症としては血糖値の急激な上昇による意識障害があります。コントロールの良い場合でも外傷、感染症、妊娠などを契機に急激な血糖代謝の乱れが起こることがあります。十分な補液とインシュリンの大量投与が必要ですが、改善しないまま悪化し死に至る場合もあります。

糖尿病の治療の基本は食事制限です。身長から計算した標準体重の近くまで体重をコントロールして更に一定の制限されたカロリーを取ることが大切です。食事に関しては食品交換表という便利なものがあり、必要なカロリーを計算して、自分の好きな食品を選んで食べることも可能です。食事の制限に加えて適度な運動も必要です。糖尿病の大半の方は高脂血症や高尿酸血症などを同時に有していることが多く運動も不可欠です。糖尿病の薬には膵臓のβ細胞を刺激してインシュリンを促進するものと摂取した糖分の分解・吸収を抑えて食後の急激な血糖値の上昇を抑える薬が第一選択となり、しばしば併用されます。最近では細胞のインシュリンへの抵抗性が増加することによる糖尿病が増えたりその抵抗性を抑える働きのある薬も使用されています。

経口薬によっても高血糖が続く場合にはインシュリンを注射することが必要となります。前回お話しした「1型」糖尿病ではインシュリンが最初から必要です。「2型」糖尿病では当初は経口剤でもコントロールされますが体重のコントロールができず、生活が改善されない場合にはインシュリンの投与が必要となります。

注射用のインシュリンも以前は牛や馬から作成され、長期の使用により抗体産生が起こり効果が低下する例も見られました。最近のインシュリンは遺伝子工学により作られた抗原性の少ないものとなっています。インシュリンにはその効果の持続時間や力価の差によりいろいろなタイプがあります。強化療法という治療は毎食前に血糖値を測定し、その値に応じた超速効型のインシュリンを投与します。ベースラインとして夕食後に長期効果型のインシュリンを打ちます。合計一日4回の自己注射が必要ですが、これにより慢性の合併症の予防効果があるとされています。

現在インシュリンは注射しか投与方法はありません。注入器の進歩や針の細小化等の改善によりインシュリンの投与は以前よりも容易になっていますが毎日の注射(ほとんどは自己注射)は大変です。内服で有効なインシュリン製剤の開発が行われていますが未完成です。人工膵臓の開発や膵臓の移植治療などこの分野の研究が盛んです。

●総合相談日
10月12日(火) 9～12時

●インフルエンザ予防接種
が、予約なしで10月から接種できます。

※東陽病院 ☎84-1335

文芸

俳句

帰省子に国破れても山河あり
葉月来る靖国参り戦友の便
桑名 大行

葉月雨暴れまくりて通りすぎ
毎年の行事を決めし盆帰省
長谷川 理正

独立の初の帰省子母おろろ
帰省せし孫のパジャマの裾伸ばし
今関 満喜子

帰省するしわの数増す母の顔
帰省する一族揃い酒交わす
小林 順子

盆帰省南の空へ吾娘発り
帰省子の肩にいくい込む靴かな
福田 幸子

帰省子の好みの盛らる皿の数
わが葉月八十路の疲れいでしかな
藤代 ゆう

帰省子や茶髪となつて大人めく
風の盆明けの草履の紐ゆるむ
玉虫 栗扇

虫の音のことさら淋し老の日々
待ち望むひと雨ありて大根まく
若梅 あやめ

葉月夜の月あかあかと山淡し
葉月子の小犬と別れ惜しみけり
選者 山口 一秋

短歌

休み田を覆ひて茂る山ホップ
葉群は風にひるがへりあつ
佐瀬 初音

仕来りを守りて作りし盆棚を
若きがまたもとやかやく言へり
吉岡 信子

壮年の骨の密度とふ結果聞き
鎌の一打に力がこもる
青木 秀子

散步する吾に「おはよう」と声をかけ
中学生の自転車音が過ぐ
秋葉 悦子

四年余を乗り継ぎて来し吾が車
いつしかワイパーの動き鈍りぬ
芹川 初子

ぎこちなく歌詠み来しを端脚は
リズムをとりにて網戸登りぬ
宇井 ちい

十階に向き昇れるエレベーター
九十九里浜の眺め広げ
八角 三枝

わが里の稲穂が黄の色深め来て
田ごとに金の光りを揺らす
越川 教子

空つゆに日照りまだまだ続くらし
青き柿の実日焼けて来つ
押尾 輝子

川中の砂州を舟とする鷺に
木木はま白き塔となりあつ
西山満里子

切りやるもこれが最後と病み篤き
母の手を取り爪切りあたり
田崎 尚美

川口の在り処示せる灯台は
夜の海面に小さき輪を描く
上総 晴子

火中より海女が掻き出しくれし雲丹
潮白ふを吹き吹き食ふ
選者 齋藤つね子

